

三井住友信託銀行は、全ての人々の金融へのアクセス拡大を促進していくことを目指して、資産形成や資産管理、相続や贈与、住まいなどに関する商品・サービスを研究・提供し、それを活用いただく情報(金融リテラシー)と合わせて発信してきました。

高齢者が積極的に社会参加し続けるプロダクティブ・エイジングの実現に向けた共同研究・情報発信に取り組むことに加え、2022年に成年年齢が18歳に引き下げられたことから、若い世代への金融教育の提供にも積極的に取り組んでいます。これからも、信託銀行が持つ多様な機能や、広範なネットワークを活用して、さまざまな取り組みを進めていきます。

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

前例のない長寿社会を迎えつつある時代においては、これまで以上に「人生100年時代の金融リテラシー」を情報発信、啓蒙していくことが重要と考え、2019年に専門組織として「三井住友トラスト・資産のミライ研究所」は発足しました。

2022年の成年年齢の引き下げを背景として、教育現場から寄せられる金融リテラシー教育ニーズに応えるべく、発足時より、勉強会や教育プログラムの作成にトライしてきました。2022年4月から高等学校家庭科での金融教育の必修化に対して、汎用性がある金融教育教材としての「ベーシックコース」と、SDGsと金融の関係について織り込んだ「アドバンスコース」の2つの教材シリーズを作成し、照会や要請のあった高校に、三井住友信託銀行の全国の営業店部を窓口として、2022年3月より金融教育授業教材の無償提供を開始しています。

ミライ研

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

三井住友トラスト・資産のミライ研究所はWebサイトにて情報を発信しています。
<https://mirai.smtb.jp/>



私立灘中学校・高等学校での取り組み

三井住友トラスト・資産のミライ研究所は2022年6月4日、兵庫県の灘中学校・高等学校で『『世界+私』のミライをつくる SDGsと金融』をテーマに出張授業を実施しました。授業には中高の生徒51人が参加。今回は、同校が年2回行う特別授業「土曜講座」の一環で実施したもので、三井住友信託銀行から、生徒の金融リテラシー向上やSDGsへの意識を高めてもらう目的でアプローチして、開講に至りました。

講義は『『2050年』の世界を想像しよう』と『『ミライ』に向けた『金融』の役割』の二部構成で進行了しました。

金融教育教材のうち、SDGsと金融の関係を取り扱う内容の「アドバンスコース」を活用。SDGsや脱炭素の現状と金融が果たす役割、人生100年時代に向けたマネープランとしての投資などについて解説しました。講義終

了後も、生徒から講師への熱心な質問が出され、出席した生徒からは「SDGsと金融の関わり方についての理解が深まった。他の企業の取り組みにも注目したい」との感想をいただきました。

